

# 高島藤樹会

(題字は、竹脇曇卿先生によるものです)

発行  
NPO法人 高島藤樹会

〒520-1224  
滋賀県高島市安曇川町上小川1225-1  
藤樹書院・良知館内  
電話・FAX 0740 (32) 4156

## 「今一度、藤樹会の原点を」

小多 借裕

藤樹先生に次のようなことばがある。

すべての人間は、金銀珠玉よりも、なおすぐれた「明德」というたからを、方寸のうちに賦与されて、この世に生をうけている。天は万物を生み育てる父母であるが、しかしその明德は人間だけに与えられた。人間が万物の霊と呼ばれる所以は、じつにここにある、と。

ところが、昨今のテレビや新聞にぎわしている事件を見ると、人間の良心はどこへいったかと首をかしげることばかりで、心温まるニュースはほとんど見当たらない。こうした現実社会と先生の教えとの違いがどうして起きるのか。先生の答えはしごく明快である。われわれは、日常生活のなかで明德を發揮せずに、曇らせている。その曇らせる原因は、「慢心」が暗雲のようにおわれれている事にある。その慢心を取り除かねば、ついにアクのように溜まり、ついにはそのひとの心だてや言行が異なるものになってしまう。



慢心とは、われこそが、という我執の心であり、こ

こには人を暖かく思いやる心など、さらさらしない。この慢心の無い人間は稀だ、と先生は説く。二〇〇六年一月会報1号(創刊号)「ひじりの声」を敢えて掲載させて頂きました。

さて現在はどうでしょうか。依然として、新聞やテレビで考えられない様な事件や、企業の責任者のお詫びの報道が絶えません。不登校やいじめ、フリーターからニートへ、授業崩壊など、子ども達の多くが生き方に戸惑いを感じながら成人しているのが現状です。藤樹会の究極の目標である「致良知」「五事を正す」など、藤樹先生の教えを地域に如何に生かすかを念頭に、一昨年から映画「近江聖人中江藤樹」の上映会を市内各地で実施して来ました。しかし、市内での地域差があるのは否めません。地域や市民、年齢を問わず、全ての市民が先生の教えや生き様から多くを学ぶ事が大切です。今一度、親と子、地域が先生の教えを思い起こして学び直しを心掛けてほしいと願っています。

現在、高島市の教育現場では、藤樹先生の教えを原点とした「高島の志の教育」を教育の重点とし、教育大綱に位置付けています。

「子どもは地域の宝」を念頭に、市民の地域力の更なる向上を願っています。

## ひじりの声

上田藤市郎

この数か月、私学の小学校の建設、保育園、幼稚園教育に関する話題が、連日メディアに取り上げられた。文科省をはじめとして自治体も、教育といえば、子供たちの学力向上に躍起になっている。

藤樹先生は、藤樹書院に掲げた「藤樹規」の中で、「学び」とは、多量の知識や技能の習得ではなくて、人としての「生きる姿勢」を身につけることだと述べておられる。総理大臣をはじめとして、官僚、与野党国会議員の答弁を聞いてみると、人間は、自己保身のためには、どのような言葉や行動をとってでも、その場を切り抜けたいという体である。無理が通れば、道理引つ込むが、世の中なのだとなんて納得させられそうである。

しかし、この風潮に「ひじりの声」は、断じて納得しない。人の問いかけに誠意をもって答え、言葉と行動を一致させて、誠実に生きるという「藤樹先生の志」を、政治に携わる者こそ堅持すべきではないのか。品性が問われているのである。世の中に嘘や偽物があふれ、正直者が馬鹿を見ることがあっても、只管、「致良知」、この道を行く人間がいてもいいはずである。藤樹先生が、高島の地に残されたこの教えを誇りをもって実践しよう。